

平成28年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等

【北海道地区】

研究大会開催日：平成28年9月9日（金）10日（土） 小樽市

大会主題 「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く

日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

大会副主題 「北の大地から世界を見つめ、

新しい社会の形成に向けて挑戦する子どもを育む学校経営の推進」

〔成果〕

- 全道各地より630名の参加を得て、「子どもの実態や地域の特性を生かし、学校の教育力の向上を図る校長の役割」と「学校の組織力向上及び人材育成に関わる校長の役割」における具体的方策等について熱心な協議が行われた。
- 参画型の分科会運営を試行して4年目となり、「学校づくりのビジョンを語り合う場」「交流の成果を持ち帰ることのできる場」として位置付けられてきている。今回も、アナライズカードや参会者持参資料・グループ編制や名札の工夫、実物投影機を使用しての全体協議の工夫等によって、参会者一人一人に参画意識の高まりが見られた。

〔課題〕

- 「参画型」の分科会が定着してきており、アナライズカード、資料持参、グループ討議の観点の焦点化によって参会者の参画意識を高める工夫も見られた。今後は、提言への質疑、提言とグループ討議を関連付ける具体的な手立て、討議の見える化などの工夫をしていきたい。
- 分科会の協議を通して明らかになったことや課題となる点などを整理し、分科会構成を変更する次の大会へそれらを引き継ぎながら、継続して深めていくようにしていきたい。

〔運営の工夫〕

- 分科会の充実のために、事前に3回の分科会運営者研修会を開催して発表内容や討議の柱等について検討するとともに、電子メール等によって、分科会運営者・研究発表者が要項原稿や当日の進行について共通理解を図った。
- グループ討議に分科会運営役員（記録者、運営責任者、趣旨説明者等）が参加することによって、分科会参加者との一体感が生まれ、分科会の充実の一助となった。
- 分科会の全体協議においては、グループごとにキーワードを出し合い、それらをホワイトボードや壁面に並べて比較・吟味・検討する分科会も多く見られた。
- 事後のアンケートについては、「適切」「改善を要する」の2段階であったが、大会の目的に即した評価を基に、「十分」「概ね十分」「やや不十分」「不十分」の4段階にして参会者の研修に対する満足度を聞くようにした。
- 北海道小学校長会のホームページに各分科会の研究課題、研究発表の概要、当日持参する資料を掲載することによって、事前に必要な情報を提供するとともに参会者の課題意識や参加意欲を高めた。持参資料については、グループ討議に位置付けて活用を図った。

平成28年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等

【東北地区】

研究大会開催日：平成28年7月7日（木）8日（金） 盛岡市

大会主題 「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く
日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
大会副主題 「ふるさとを愛し 共に支え合いながら
未来を拓く子どもを育てる学校経営の推進」

〔成果〕

- 開会前に放映した岩手県の復興教育の取組をまとめたプレゼンテーションは、開会行事に繋がる効果的な内容であった。
- 「郷土の復興」をテーマとしたシンポジウムの3名のシンポジストとコーディネーターの人選がよく、統一感のとれた深みのある内容となった。参加者に深い感動を与えるとともに、「校長として果たす役割」を考えるうえで貴重な示唆を与える内容であった。
- 実践発表では、豊富なデータや取組が紹介され、視点に沿った充実した内容であり大変参考になった。グループ協議を中心とした分科会は、参加者それぞれが意見を交流することができたくさんの情報を得ることができた。地域による実態の違いを認識するとともに、今後の取組に生かせるヒントを得られる有意義な協議となった。
- 大会全体が大会主題・副題に沿い、プレゼンテーション、全体会、分科会、シンポジウム、宣言文が一貫している大会であったと参会者から好評であった。岩手の大会として特色を出せた内容であった。

〔課題〕

- 開催時期が、7月第1週として定着してきている大会であるが、学校経営上、夏季休業中の開催を望む声もあり、今後検討を要する。
- 開催経費の節減のため、全体会・分科会を移動経費のかからないコンパクトな位置にまとめて運営していく工夫が必要である。開催県の実情に応じ、場に合わせた参加割当等で会参加総数を調整するなど柔軟な対応が必要である。
- ホームページを活用した事前の大会資料提供などを工夫することで、協議により一層の深まりが見られるのではないか。

〔運営の工夫〕

- 全体会場と11分科会場を徒歩で移動できる場所にコンパクトにまとめることができた。
- 分科会では6人グループ編成とし主体的に協議に参加し情報交流ができるようにした。この形式は定着してきており、スムーズな話し合いができた。
- ほとんどの分科会場を隣のグループの話し声が気にならないスペースで準備できた。
- ホテルから借用するものを最小限に押さえ、パソコン、プロジェクターなどは実行委員各校から調達した。準備は大変だったが、会場経費を大幅に節減できた。
- 分科会では、運営の仕方を最初に確認し、共通理解の中でスムーズに運営できるようにした。

〔その他〕

- 参加人数に対してトイレの数が少なかった。一斉の休憩時間のため男子トイレに混雑が見られた。
- 宿泊荷物を持参しての参加であり、全体会での座席が狭く感じられた。

平成28年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等

【関東甲信越地区】

研究大会開催日：平成28年6月9日（木）10日（金）

東京都（中野区、新宿区、渋谷区）

大会主題 「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く

日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

大会副主題 「心豊かに生きることのできる社会の実現を目指し

豊かな発想力や創造性を身に付け

学び続ける子供を育む学校経営」

〔成果〕

- 「限られた時間で最大の成果」を目標にしてきたが、二日間ともに、千名を超える参加者があった。
- 記念講演を二本立てとしてが、今後の教育指導のあり方はもとより、校長としての経営から多くの示唆をいただいた。
- 分散会の協議会では、多くの参加者から自校でやっていたことが明確になったという感想をいただくなど、評価が高かった。

〔課題〕

- グループ協議の際、提案者、司会者、記録者が入るグループが決まっていなかったため、時間を持て余す状況が生じた。
- 司会者等の前日打ち合わせ会の実施や講演会を二つに分けて実施していくことなどが、十分に伝わっていなかった。

〔運営の工夫〕

- 参観者が意欲的に取り組む東京大会を目指し、二つの講演を設定し、選択ができるようにした。
- 分散会では、提言をもとに、校長が学校経営により一層の改善のためにできることを話し合うようにした。

平成28年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等

【東海・北陸地区】

研究大会開催日：平成28年10月13日（木）14日（金） 岐阜市

大会主題 「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く

日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

大会副主題 「確かな学力と豊かな心、健やかな体を育み、

未来に向かってたくましく生きる児童の育成」

〔成果〕

- 記念講演は、「今後の小学校教育に期待すること～学校の経営者たる校長に～」と題し、大垣共立銀行頭取 土屋 暁 氏、横浜市立旭中学校長 藤岡 謙一 氏による講演とパネルディスカッション形式による対談を行った。「リーダーシップ」や「〇〇目線」というキーワードで、異なる立場ではあるが、経営者の視点での意見を伺えたことは、とても興味深く、今後の学校改革を進める上で力をいただいたと好評であった。
- 分科会は、12分科会で109のグループを作り、研究協議を進めた。各県の取組が分かり易く提案されたことで、参加者一人一人の積極的な参加による活発な情報交換が行われ、「校長の指導性の具体」を明らかにすることができた。また、協議の視点を明確にしたこと、グループ協議でのコーディネートの仕方について、全てのグループ座長に対して事前に共通理解を図ったこと、時間配分や役割分担を計画的に行ったことにより、充実した話し合いができ、協議内容を深めることができた。

〔課題〕

- 分科会では、2つのリーダーシップの視点で3本の提案発表を行ったが、後のグループ協議で内容が重複することがあった。グループ協議の時間確保や協議内容のさらなる深まりを考え、2本の提案発表とすることも考えていきたい。
- 分科会のグループ編成は、参加者の県を考慮して行ったが、女性の参加者に偏りができた。各グループに女性が入ることができるようグループ編成を考えたい。

〔運営の工夫〕

- 「岐阜人(ぎふのひと)」と書いて「ギフト」と読ませ、「ギフトの心」、「おもてなしの心」を大切にしたい大会運営に心がけた。参加者からは、「研究面からも運営面からもギフトの心を十分に感じた」、「ギフトの心が感じられる心温まる大会であった」等の感想を多数いただいた。
- 参加者の移動負担を軽減するため、全体会場、分科会場、宿泊ホテルの場所をできる限りコンパクトになるように努めた。
- 昼食は、岐阜県の名産品を盛り込んだ弁当にお品書きを付けて提供した。「内容の割に安価である」、「岐阜県産の食材満載のステキなお弁当である」等、他県からの参加者に喜んでいただけた。

〔その他〕

- 受付は領収書で確認を行ったが、領収書の出し入れで受付が手間取った。支払い確認はできているので、県名と名前の申告で済ませたい。
- 全体会場において、荷物預かりの場所がないかというお尋ねを複数いただいた。他県参加者のことを考え、手荷物預かり等の保管体制を検討する必要がある。
- 会場案内については、案内図をしっかりと示しておくことで、会場案内係の配置をできるだけ少なくする方向で考える

平成28年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等

【近畿地区】

研究大会開催日：平成28年8月9日（火） 和歌山市

大会主題 「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く

日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

大会副主題 「郷土の自然と文化に誇りをもち、

心豊かでたくましく生きる子供の育成」

〔成果〕

- 記念講演では、「グローバル社会を生き抜く人材とは？」という演題、京都光華女子大学教授で元NHKアメリカ総局長の脇田哲志先生にご講演いただいた。大変タイムリーなテーマで、具体的な事例も挙げてお話いただいたということで、大好評を得た。
- 本会の研究大会では、6つの分科会（学校経営、現職教育、人権教育、生徒指導、特別支援教育、教育環境・教育条件）にそれぞれ協議主題を設定して、各2本の実践報告と研究協議を行った。いずれの分科会においても、「貴重な実践報告が聴け、それに基づいて情報交流と意見交換ができたことが有意義であった。」との感想を数多く得られた。

〔課題〕

- 子どもを取り巻く社会状況の変化と、それに伴う児童の課題と学校教育の課題も大きく変化してきている。現在の分科会の領域が、それらを包括するものとなっていないため見直しが必要であり、今後の検討課題である。
- 開催府県は、大会の内容の充実と運営の効率化ばかりではなく、気持ちよく参加してもらえるようにと、“おもてなし”にまで心配りして労力を費やしている。開催府県の負担軽減のために、参加者の“自己責任で”という点が課題として浮上してきた。
- 例年、大会終了後に「大会報告書」を作成し配布しているが、執筆者の負担や事務量も大きいため、簡素化を目指す方向で今後検討していく。

〔運営の工夫〕

- 受付をスムーズにするために、参加者は名前ではなく受付番号を言うことを徹底し、効果をあげることができた。
- 開会式・全体会の時間短縮を図るため、祝辞をいただく来賓を知事と市長に限定し、司会原稿も短く簡略化するとともに、その他の挨拶も極力短くした。
- 昼食場所を、大ホールではなく分科会会場にすることで、事前の交流ができ分科会の協議もスムーズに進んだ。

〔その他〕

- 全体会の時間短縮と大会に関わる者の負担軽減のために、大会宣言文をなくす方向での提案がなされたが、大会宣言の意義について論議された結果、提案は却下された。

平成28年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等

【中国地区】

研究大会開催日：平成28年11月17日（木）18日（金） 広島市

大会主題 「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く

日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

大会副主題 「夢や志をもってともに未来を切り拓く

人間力の基礎を育む学校経営」

〔成果〕

- 次回から本大会が一日開催となることを見通して、大会運営のコンセプトをコンパクトでありながらも、校長研修の充実を第一とし、それに向かって大会内容の見直しや運営の簡素化を進めることができた。
- 分科会では、ホームページを活用した提案資料の事前提示や提案趣旨の提示により、テーマを明確にして協議を進めることができた。また、協議時間を確保し、役割を決めた6人でのグループ編成とすることで前向きで活発な協議・情報交換が行われ、有意義で充実した分科会となった。

〔課題〕

- 中国地区大会の開催日を事前にお知らせしていたにも関わらず、県内研究会や他行事と重なることがあり、今後もさらなる日程調整が必要である。
- 本大会ではかなりの部分で簡素化を目指してきたが、開催地の校長のさらなる業務軽減の工夫が今後の課題である。

〔運営の工夫〕

- 本大会の運営母体である広島市小学校長会の研修体制を大きく見直し、区会、総務会、全体会等の会議の中に研修を位置づけたり、会議を抱き合わせたりすることで、計画性のある充実した準備期間となった。さらに、既存の広島市小学校長部会（学校経営、教育研究、教育財政、人権教育、人事給与、広報）を活用し、業務分担を行って準備を進めることで、組織力・運営力・人間関係等を生かして、円滑に業務を遂行することができた。
- 開催地が広島市という地の利を生かし、隣接した徒歩圏内の三会場を広島市中心地に確保した。それによって、会場案内や移動手段、駐車場手配等に係る業務削減が図られ、円滑な運営につながった。
- 予算削減（大会袋、飲料水配布等の廃止）を図るとともに、必要などころへの積極的な予算措置を行い、校長業務を外部委託（進行役のアナウンサー、写真、講演記録等）するなどの軽減を図った。
- 「研修の充実こそが最高のおもてなし」を合言葉に、前日準備の簡素化を図る上でレセプションを廃止した。

平成28年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等

【九州地区】

研究大会開催日：平成28年8月18日（木）19日（金） 熊本市

大会主題 「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く

日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

大会副主題 「豊かな社会力を身に付けた子ども育て、

夢と希望が輝く学校経営を推進する校長の理念と指導性」

〔成果〕

- この度の熊本地震により大会開催を危ぶむ声もあったが、開催に踏み切ったのは、熊本の元気を届けたい、どんな状況にあっても凛として立つ校長の姿を示したいという強い思いからであった。九州各県からの励ましに支えられ、大会では、今後の教育の方向性を見据えるとともに、校長がもつべき理念や指導性について熱く議論を交わすことができた。
- 全連小報告は、学習指導要領改訂の現状と概略がよく分かった。
- 記念講演の蒲島知事の一言一言は、県行政、学校と組織は違うものの、同じ経営者として心に深く刻み込む事ができるものばかりであったと賞賛の声が多数で、信頼される学校づくりを目指す校長にとって、大きな刺激となった。勇気づけられたとの声が多い。

〔課題〕

- 大会の中心となる分科会については、参加型の会になるような細かい計画により積極的な協議が進められていた。しかし、一部に、分科会テーマと提案発表の内容のずれがあったとの指摘や発表時間の厳守などの課題もあった。今後さらに、各県におけるテーマのかみ砕きや事前準備が求められる。

〔運営の工夫〕

- くまモンや水前寺清子さんの登場。この2つは参加者全員の心に強く残るサプライズとなった。
- お弁当に地元の食材を使った、バラエティに富んだもの、そして、蒲島知事の記念講演「夢、限りなく」。熊本らしさを全面に出した運営がたいへん好評であった。

〔その他〕

- 「震災復興のなか、参加して、逆に元気をいただいた」、「子どもの笑顔、教育こそが復旧・復興の第一歩であることを感じる素晴らしい大会だった」といった声を聞き、熊本県の校長の姿からも「熊本は元気です」といったメッセージを受け取ることができた。
- 震災後の開催の決断に敬意を表したいとの感謝の声が聞かれた。